



～未来の世代に向けて～

若手技術者有志が考える「新潟都市圏のまちづくりへのメッセージ」

新潟都市圏の将来像を自由に考える集まり
(開発技建株式会社・株式会社キタック・エヌシーイー株式会社の若手有志)
令和3年10月

取組の主旨

本検討を行った私たちは、建設コンサルタントとして、現在の少子高齢化や国内外の動向を鑑みたとき、未来の世代の人たちが新潟の将来について考える上で参考となるものを残すことが重要と考えました。

そこで、私たち地域の建設コンサルタント3社の若手技術者有志が集まり、「新潟都市圏の未来像」を一緒に考え、まとめることにしました。新潟が一層発展しつづけるために、特徴や長所を活かし伸ばす観点から、今から取り組むべき新たなインフラや制度づくりなどのアイデアを出し、まとめておくことは意義があることと信じております。できるだけ具体的な取組のアイデアを創造し、そのことで期待できる効果をイメージし、新潟の将来発展の可能性を予感することができるメッセージとなるようなものを目指しました。

このメッセージが、将来を担う若者たちが新潟都市圏において生活したい・起業したいなど、“新潟で何かを始めてみたい”と思いつききっかけやその後押しとなることを願っています。

筆：建設コンサルタント若手技術者有志

- 約30年先（2050年頃）の新潟都市圏の未来像をまとめるもの
- 長所を伸ばす観点から、今から新たなインフラ整備や制度創設などの取組のアイデア出し
- 将来を担う若者たちが、この地域で何かを始めたいと思いついた際のビジョンになるもの

検討の進め方

「新潟都市圏の将来像を自由に考える集まり」は、新潟に居を構える建設コンサルタント3社の若手技術者によるワーキングを設けて検討を進めました。

表. 若手技術者によるワーキングのメンバー

社名	所属	氏名
開発技建株式会社	調査計画部	藤巻 智之
		村田 亨 樋口 浩子
株式会社キタック	技術企画室	森 将恒
	環境技術センター 環境計画課	佐藤 育実
エヌシーイー株式会社	都市・地域計画部	岩淵 和有 木村 光伸 木村 誠



写真：若手技術者のワーキング[R3.4.12撮影]

※本資料の内容や取扱いについてのお問い合わせは、エヌシーイー株式会社（担当：都市・地域計画部）まで。

3社のホームページ



開発技建株式会社



株式会社キタック



株式会社エヌシーイー



検討内容

検討にあたっては、各社の社長よりアドバイスをうけながら、地域の強みや特徴を確認したうえで、30年後の将来の社会の姿を踏まえた新潟都市圏の問題意識を共有しました。それらの結果を踏まえ、30年後の将来を“希望のもてるまち”にするためのあるべき方向として5つの方針を定めました。この5つの方針をもとに、ワーキングで「将来に向け対応すべき具体的な取組案」を具体化するなど、30年後の将来に向けて今から取り組むべきことについて更に議論を深め、「新潟都市圏のまちづくりへのメッセージ」として形にしました。検討結果は、次ページをご覧ください。

新潟都市圏の将来を考えるためのアドバイス

『日本海国土軸の強化や拠点性向上、陸・海・空の連携が必要』



開発技建株式会社
代表取締役社長 寺本 邦一

■首都直下地震などによる日本の中枢機能の喪失が危惧されており、我が国の社会経済を維持し、東京の一極集中を是正する上で、安全性の高い日本海側で人口集積が最も高い新潟都市圏への首都機能の分散強化が重要。／■国土強靱化の一環として、高速自動車国道および一般国道の多重性や耐震性確保による日本海国土軸の強化並びに新潟駅、新潟港、新潟空港を連絡する交通ネットワーク強化による陸・海・空が連携した新潟都市圏の拠点性向上に配慮。／■都市緑地の拡大や緑の回廊など都市空間内のグリーンインフラ整備やまちなかにある様々なパブリックスペースの活用により、過度な密を回避した感染症に強い良好な都市空間を形成することが大切。／■デジタル社会形成に向け、IoTやDXを活用したスマートシティやスーパーシティの取り組みを重視。／■観光交通利用者へのリアルタイム情報の提供等、周遊観光拡大に向けた利便性向上をDX推進で実現し、通年観光や歩いて楽しむ観光等のポテンシャルを最大限活用した観光の強化が必要。

『多核連携型の都市構造の再構築と拠点の強化・拡充が必要』



エヌシーイー株式会社
代表取締役 大平 豊

■情報技術の進展によるスマートシティ推進は都市間で競争が始まっている。行政のみではうまくいかない。地域の民間活力を使って進めないと難しい。／■在宅勤務や働き方改革で余暇時間が増えライフスタイルも変化。これに対応した空間整備が重要になる。あわせて、緩やかなつながりをもった新たなコミュニティの構築が必要。／■まちなかに住まなくても郊外の環境の良い場所で生活や子育てができる。そうした若い人と旧住民とが交流することで、新たなコミュニティビジネスが生まれるのではないかと懸念される。ヨコの連携が機能していない。各拠点の強化とともに、主要道路の結節点に新たな拠点をつくるなど多核連携型の都市構造の再構築と拠点の強化・拡充が必要。／■産業構造が変化し、新たな産業やビジネスが展開する。その受け皿となる拠点が必要。再生可能エネルギーやデータセンター、新たな物流施設など。新潟東港や新潟空港は交通機能の強化とともに、その機能と一体となった施設や企業を周辺に誘致するような開発が必要。

『世界に通用するまちへ！交通拠点と交通網の整備、人材育成が必要』



株式会社キタック
代表取締役社長 中山 正子

■国内外に開かれ、より広い社会とつながれるまちになることが重要。そのためには、世界に通用するまちになる必要がある。まずは、世界的なバリューのある企業を新潟に誘致する。／■世界の企業にとって魅力のあるまちにするには、今ある鉄道駅・空港・港湾などの交通拠点を整備し、魅力ある「玄関」にする必要がある。同時に、「玄関」までの移動の利便性をもっと向上させるために国内外の交通網の整備が必要である。

■交通拠点と市街地・郊外を結ぶ環状高速道網の整備も必要である。移動時間を短縮させ、移動によるストレスやフリクションを軽減する。副次的効果として交通事故の減少も見込める。／■一方で、世界的な企業で活躍できる人材を新潟で育てる必要もある。将来を担うアイデアある人を新潟で育てるために、新潟で世界最高水準の教育が受けられる事を目指す。世界に通用する日本人が育つ地域を実現させたい



参考イメージ：
国土全体における新潟都市圏の位置づけ

写真：各社社長からアドバイスをうけるワーキング [R3.6.15撮影]



私たちが考える「未来の新潟都市圏」

新潟都市圏の強みは、
『豊かな自然資源』のもと発展した『多核連携の都市構造』
と『多彩な産業・文化』

この強みを最大限に活用して



私たち若手技術者有志の考えを以下に整理しました。30年後の未来に向けて、技術研鑽し社会貢献できるよう努めてまいります。

30年後の未来に向けて今から取り組むべきこと —新潟都市圏のまちづくりへのメッセージ—

01 活力を創造

新潟都市圏の地理的優位性を最大限に活かし、首都圏や大都市圏のほか周辺都市圏との広域連携はもとより、中国やロシアあるいはヨーロッパとの海外との交流の入口としての役割を担っていくことが求められます。そのためには、今ある拠点を強化し都市圏内において各拠点の結びつきを一層強化していくことが必要です。

更に、各拠点を結ぶ線と線が交わる結節点周辺には、産学官の多様な連携のもと地域経済を牽引する産業活動の拠点を新たに形成していく必要があると考えます。

“拠点”がツナガル

02 安全で信頼が高い

既存の交通インフラの強化や土地利用のコントロールによって、地震や水害など想定を上回る災害が仮に起きたとしても、回復する強靭さを備え、生活や産業活動が滞ることのない安全安心な都市構造を構築する必要があります。

また、高速道路や新幹線・空港・港など都市圏に存在する陸・海・空の各交通機能が高いレベルで相互に連携することで、都市圏のみならず、首都圏のバックアップ機能など国土全体の強化にも寄与する都市圏を目指す必要があると考えます。

“信頼”がツナガル

03 人・モノ・情報が行き交う

都心と郊外との移動、拠点エリア内での周遊などにおいて、すべての市民がシームレスに移動できる環境をつくることで、多様な暮らし方を自由に選択できる都市をつくる必要があると考えます。

また、隣接都市や県境を越えて近接都市及び首都圏等との移動を円滑化し時間圏を一層拡大するため、新幹線駅や空港など広域交通拠点へのアクセス向上、広域高速交通体系の更なる強化が求められます。

更に、こうした安全で快適な移動環境を実現するため、DXの推進により各種データの連携基盤を構築することで情報の提供や活用を高度化する必要があると考えます。

“人・モノ・情報”がツナガル

04 持続的に成長しつづける

公民連携のもと、道路や河川などの公共空間も含め都市内に存在する様々な空間を有効活用するとともに、緑と水のグリーンインフラの導入や感染症対策などに取り組むことで、快適と安心、そして魅力を兼ね備えた“選ばれる”拠点を つくる必要があります。

空間資源の有効活用は、二地域居住やシェアオフィス、子育て支援などの多様な暮らし方を選択できるまちづくりにつながるほか、カーボンニュートラルやSDGsの達成にも寄与することで、新潟全体の価値やイメージを向上させ、人や資源を更に引き込む環境づくりを目指す必要があると考えます。

“空間”がツナガル

05 豊かな恵みの活用

食・雪・温泉・景観など四季を通じてもたらされる自然の恵みを最大限に活用し、来訪者だけでなく市民の利用も想定した都市圏内の身近な観光レクリエーションのコンテンツを磨きあげ、その質と量を充実させていくことが必要です。

新潟駅、新潟空港など都市の顔や玄関口となる場所の魅力を高めつつ、道の駅・みなとオアシスなどの拠点での交流やDXによる情報発信機能を強化する必要があると考えます。また、近い将来に世界遺産認定される佐渡との連携強化は、地域全体としての訴求力を高めるうえで必要です。

“魅力”がツナガル

新潟都市圏を世界に開かれた“ツナガル”まちにデザインする

この図は、ワーキングで協議した内容をもとに、**将来こうなれば、新しい都市圏の姿を描いたものです。**

※記載内容は、データや分析に基づいたものではありません。
※国や自治体の計画等と調整を図ったものではありません。
※拠点やテーマパーク等の位置やイラストはイメージであり、具体的な位置や施設を示すものではありません。

世界に発信する食に関するテーマパーク

放射・環状道路の交差点立体化

ひと中心の都心への再編

環状道路とフリッジパーキングで都心内交通を極小化

世界をリードするクリーンエネルギー生産拠点

既存駅を中心とした交通ターミナル形成

広域的な救助・復旧・復興活動の拠点

信号機のない環状交差点による事故・災害時リスクの低減

MaaSとスマート観光を実現する情報プラットフォーム

地域内外の出会いと交流

放射・環状道路の完全4車線化

世界の人材が集まる産学官の共同研究開発拠点

Bicycle

Car rental

Train

Taxi

Bus